

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表 雑誌等又は発 表学会等の名 称	概 要
(著書(欧文)) 1. 2. 3. 4. (著書(和文)) 1. コミュニカティブな 英語教育を考える： 日本の教育現場に役 立つ理論と実践 2. 3.	執筆 協力	2014年3月	アルク	Communicative language teaching の実践 に参考になる英語教育関連書籍の紹介 と解説を行った。 A5版 全1頁 担当部分：英語教師のための読書案内 (p 187～p188) 共著者：荒井貴和,池田真,和泉伸一,海野 多枝,長田恵理,加藤洋昭,狩野晶子,萱忠 義,倉住修,齋藤雪恵ほか19名 執筆協力者：相川健弘子,奥田朋世,越智 健太郎,桑原秀則,相馬智子,園田敦子,日 朝彩子,町田沙織
(学術論文(和文)) 1. 2. 3.				
(学術論文(欧文)) 1. An Assessment of Implementation of Oral Communication in Japanese Senior High School.	単著	2001年9月	University of Newcastle upon Tyne, Faculty of Education, Centre of International Studies in Education (M.Ed. dissertation)	本調査の目的は，高等学校で行われて いたオーラルコミュニケーションの授 業アセスメントを行い，どの程度指導 要領に沿った授業が行われているか評 価するとともに，英語力を育成するた めの授業方法を提案することであつ た。結果として，多くの高校では昔な がらの文法説明などが中心であつた が，いくつかの高校では，コミュニ ケーションを中心に英語力の育成に力 を入れている学校が見られた。第二言 語習得論にもとづいた指導理念やカリ キュラムの作成，また実際の授業でど のように活用するか教員の研修が課題 となった。 総ページ：91ページ (査読有)

2.	Departmental differences and similarities in learning English: Learning styles and objectives	共著	2005年10月	JALT2004 Conference Proceedings. 掲載ページ：P272～P279	この調査の目的は、大学でニーズ分析を行い英語学習者の学習スタイルと学習目的を明らかにすることである。第1学年の英語学習者110名を対象とした。総ページ：7ページ 担当ページ：P272～P276 (Abstract, Introduction, Learning Style) 共著者：桑原秀則，中西貴行，駒井一仁 (査読有)
3.	Issues in Bilingual Education with Japanese Children in North East England	単著	2006年10月	日英・英語教育学会紀要,第10号 掲載ページ：P111～P121	北東イングランドでは、約100名の日本人の子ども達が生活をしている。本調査では第2の文化や言語を習得する上での潜在的な問題を探りいくつかの解決策を提案した。総ページ：10ページ (査読有)
4.	Willingness to Communicate as an Alternative Assessment?	共著	2006年10月	JALT2005 Conference Proceedings. 掲載ページ：P372～P381	この論文は、Willingness To Communicateを用いたモデルが、コミュニケーション能力を測定する評価法に代わるものとして利用可能かを検証するものである。英語コースを履修する大学生に質問紙調査を行い、コミュニケーションに関する意思等について比較をした。総ページ：9ページ 担当ページ：P372, P375～P376 (Abstract, Improvement Differences by Students' Academic Majors) 共著者：岡山陽子，中西貴之，桑原秀則，佐々木美帆 (査読有)
5.	How are foreign language anxiety and fear of negative evaluation provoked?: A causal model of foreign language anxiety.	単著	2016年3月	Sophia TESOL Forum: Working Papers for Teachers of English to Speakers of Other Languages. Vol. 8 掲載ページ：P47～P64	英語の発話時に起こる外国語学習不安はまだ体系的なモデルがなく、発生理由や経路が不明瞭である。本調査では英語を学修する大学生50名を対象に質問紙調査を実施し、Clark and Wells (1995) の認知モデル (対人恐怖) に外国語不安データを照合し、外国語不安発生の仮説的モデルを作成した。総ページ：17ページ (査読有)

6. What Happened to Mr. Bean? A Speaking Activity for the ESL/EFL Classroom	単著	2016年8月	TESOL International Association 'The Newsletter of the Video and Digital Media Interest Section'. 掲載ページ：インターネットでの掲載のためページ掲載不可。	Mr. Bean のビデオシリーズを使った英語学習活動を紹介する。また、授業計画の立て方や注意点、プリントの作成法だけでなく授業での実際の使い方も詳しく解説する。また、予測される学習効果などについても触れている。 総ページ：インターネットでの掲載のためページ掲載不可。 (査読有)
7. Foreign-Language-Anxiety-Forming Process and Its Effect of Fear of Negative Evaluation	単著	2020年3月	常磐大学総合政策学部紀要『常磐総合政策研究』, 第5号, 掲載ページ：P79～P108	関東にある4つの大学で共通科目として英語を学習する大学生8人に英語発話時に外国語不安がどのように想起されるのかについてインタビュー調査から得られたデータをThinking at the edge (TAE)を使用し再度分析を試みた。分析した不安の外的要因が理論とは整合性がないことが指摘されたためである。再分析の結果、信頼性の高い他者からの評価懸念を中心にした外国語不安の想起仮説モデルを再構築することができた。 総ページ：29ページ (査読有)
8. Peer Mentoring and Development of Student Agency	共著 筆頭著者	2020年8月	JALT2019 Postconference Publication. 掲載ページ：P409～P419	本研究はピア・メンタリング（学習者が学習者をサポートする）の実践において、メンターの自主性の発達を明らかにした。メンターへのインタビューと下級生とのセッションの記録を分析したところ、8項目の自主性に関連する刺激があることが認められ、自身の言語学習の知識や経験をメンター活動に活かすことで、メンター自身の自主性に影響があることが分かった。 総ページ：10ページ 担当ページ：P411～P415（Research Questions, Data Collection and Analysis, Results, Discussion, Conclusion） 共著者：桑原秀則, Kevin McManus, 渡邊真由美 (査読有)

9. Foreign Language Anxiety-forming Process Based on Fear of Negative Evaluation	単著	2021年3月	常磐大学総合政策学部紀要『常磐総合政策研究』第7号, 掲載ページ: P27～P53	本研究は以前行われた2つの調査から予想される外国語不安の想起モデル(仮説)をベースモデルとし, その仮説を検証することが目的である。Clark and Wellsの認知モデルの作成データを基に外国語不安に関する質問事項を作成し面調査を行った。得られたデータを分類し質問紙を作成した。作成した質問紙は英語を外国語として学習している大学生147人を対象に質問紙調査を実施した。回収したデータは共分散構造分析によって分析され外国語不安の想起が二重構造になっていることが分かった。 総ページ: 26ページ (査読有)
10. Fear of Negative Evaluation amongst Japanese University EFL Learners: A Feature of The Foreign Language Anxiety-Forming Model	単著	2025年9月	上智大学外国語学研究科言語学専攻博士後期課程(言語学博士)	日本人大学生が授業において, 外国語(英語)を口頭で使用する際に感じる外国語使用不安と他者からの否定的評価懸念に関する研究を行った。大学生の一般英語としての学習者に外国語使用不安に関連するインタビューとアンケート調査を行い, 回収したデータは, 質的分析手法(TAE)と量的分析手法(共分散構造分析)で分析を行った。その結果, 授業における英語使用(スピーキング)の不安想起モデルの構築及び検証ができた。英語使用不安は, 主に他者からの否定的評価懸念が要因となって引き起こされ, その結果様々な英語学習には適さない情意やそれに基づく行動を引き起こすことが明らかになった。本研究は上智大学博士論文として作成、提出された。 使用言語: 英語 総ページ数: 258ページ (査読有り)
(学術論文(和文)) 1. 2. 3.				
(紀要論文) 1. Cultural and Linguistic Problems of Japanese Children in North East England	共著 筆頭著者	2003年3月	茨城大学教育学部紀要『教育科学』, No.52, 掲載ページ: P173～P185	北東イングランドに住む日本人の子ども達の第2の文化・言語を習得する上での潜在的な問題点を考察し, その問題点に対する解決策を提案した。 総ページ: 15ページ 担当ページ: P174～P185 共著者: 桑原秀則, 平野道代 (査読無)

2.	Historical Movement of Modern Foreign Language Education in Japanese Senior High Schools	共著 筆頭 著者	2003年3月	茨城大学教育学部紀要『教育科学』, No.52, 掲載ページ: P187~P205	日本人の特性や適切な外国語学習方法・目的にあったカリキュラム作成方法などを考察し, 日本の情勢と文化に即した外国語教授法を提案した。総ページ: 18ページ 担当ページ: P188~P205 共著者: 桑原秀則, 平野道代 (査読無)
3.	Needs Analysis of the General English Classes	共著 筆頭 著者	2005年3月	茨城大学人文学部紀要『コミュニケーション学科論集』, No.17, 掲載ページ: P27~P54	一般英語を受講する学生を対象に, ニーズの特定ができるかどうかを調査するため質問紙調査を実施した。また学部によるニーズの違いも検証された。総ページ: 27ページ 担当ページ: P27~P31, P42~P43 (Abstract, Introduction, Research Design, Description of Research Methods, Conclusion, Further Comments) 共著者: 桑原秀則, 中西貴行, 駒井一仁 (査読無)
4.	Fear of Negative Evaluation in Foreign Language Anxiety among Japanese University Students	単著	2017年3月	常磐大学教職センター教職センター紀要『教育実践研究』, 第1号, 掲載ページ: P31~P51	他者からの否定的評価懸念をもとにした外国使用不安について英語を学習する8人の大学生に面接を実施し, 質的研究を行った。集められた質的データはClark and Wells (1995)の認知モデルの概念に沿って分類・分析され, 因果モデルが明らかになった。学習者の目標言語発話に対する否定的評価懸念の影響、評価懸念の発生原因の調査の足がかりになった。総ページ: 20ページ (査読無)
5.	A Causal Model of Foreign Language Anxiety Based on Fear of Negative Evaluation from the Interviews among Japanese University Students	単著	2018年3月	常磐大学教職センター教職センター紀要『教育実践研究』, 第2号, 掲載ページ: P31~P50	「他者からの否定的評価懸念をもとにした外国使用不安」について集められた質的データをThinking at the Edge (TAE)という質的分析手法を使用し, 再度分析を行った。前回との類似点はあるが, 結果より信頼性のある因果モデルが検出された。総ページ: 19ページ (査読無)
6.	常磐大学共通英語カリキュラム(FTEC)ー理論的背景と運用ー	共著	2018年9月	常磐大学人間科学部紀要『人間科学』(研究ノート), 第36巻第1号, 掲載ページ: P41~P51	2017年に策定され, 2018年度から運用が始まっている常磐大学共通英語カリキュラムフレームワーク (FTEC) の目的やを理論構成を説明した。(研究ノート) 総ページ: 10ページ 担当ページ: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (10%) 共著者: 森本俊, 桑原秀則, 上野真悠子, Kevin McManus (査読無)

7. 常磐大学共通英語科目運営のための適正クラスサイズに関する一考察	単著	2019年2月	常磐大学総合政策学部紀要『常磐総合政策研究』（研究ノート），第4号，掲載ページ：P99～P111	共通英語科目で実施している外部試験の得点とクラスサイズの相関関係の調査を実施した。結果として，上中位層において小さいクラスほど得点が高いという傾向が示された。 (査読無)
8. Preliminary evaluation of the Framework of Tokiwa English Curriculum (FTEC) based on student questionnaire responses: part one of a three-part case study	共著	2020年3月	常磐大学人間科学部紀要『人間科学』，第37巻，第2号，掲載ページ：P1～P22	2018年度から運用が開始されている常磐大学共通英語カリキュラムフレームワークの評価・改善等の一環として行われた，受講学生を対象として行われた授業評価調査である。授業方法，教材，評価法などについて，質問紙調査を実施した結果，受講した学生からおおむね良好な回答を得た。 担当ページ：共同研究につき本人担当部分抽出不可能（30%） 共著者：Kevin McManus, 桑原秀則 (査読無)
9. 英語科教育法Ⅰ～Ⅳの再考：英語教員養成科目群としての統合を目指して	共著	2021年3月	常磐大学教職センター教職センター紀要『教育実践研究』，第5号，掲載ページ：P107～P124	本論文は常磐大学の英語科教授法Ⅰ～Ⅳを1つに統合された英語教員養成科目群とすることで，改善を目指すものである。文部科学省が提示した外国語（英語）コアカリキュラムの効果的に教員養成を行うためには，英語科教育法Ⅰ～Ⅳを統合した科目として捉え，共通の指導法で提供することを主張した。統合するにあたり，CLIL，基本動作のトレーニング，J-POSTLの導入を検討し，実践施行モデルを提案した。 総ページ：17ページ 担当部分：P108，P112～P115（はじめに，CLILを使った科目間の横断的学習の取り組み） 共著者：渡邊真由美，桑原秀則 (査読無)
(辞書・翻訳書等)				
1.				
2.				
3.				
4.				

(報告書・会報等) 1. 2018年度 語学学習に関するアンケート報告書 2. 3. 4.	共著	2018年6月	2018年度学内研究助成 「Framework of Tokiwa English Curriculum (FTEC) に基づいた共通英語教育カリキュラムの実践と検証」の活動の一環として作成	2018年度から運用が開始されている常磐大学共通英語カリキュラムフレームワークの評価・改善等を行うための現状把握を目的として行った。結果として、日常的な英語力や知識、読解や聴解へのニーズが高いことが明らかになった。 総ページ：81ページ 担当ページ：P 29～42（大学で身につけたい能力） 共著者：森本俊，<u>桑原秀則</u>，上野真悠子，
(国際学会発表) 1. Needs Analysis of the General English Classes 2. Willingness to Communicate as an Alternative Assessment? 3. Gradual Development of Listening Comprehension with the Centre Examination Listening Materials	共同代表 共同 共同代表	2004年11月 2005年10月 2008年11月	全国語学教育学会 第30回年次国際大会（奈良県 帝塚山大学） 全国語学教育学会 第31回年次国際大会（静岡県 コンベンションアーツセンター） 全国語学教育学会 第34回年次国際大会（東京都国立オリンピック記念青少年総合センター）	大学の一般英語を受講する大学生を対象に、アンケート調査を行い、英語学習ニーズの特定ができるかどうかを考察した。また、この調査は同一大学の複数の学部で行われ、学部によるニーズの違いが検証された。 担当部分：Abstract, Introduction, Research Design, Description of Research Methods, Conclusion, Further Comments 共同発表者：<u>桑原秀則</u>，中西貴行，駒井一仁 Willingness To Communicateを用いたモデルがコミュニケーション能力測定法として可能かを検証した。その結果、「自信」が増加傾向にあり、学部による違いも見られた。「意思」と「緊張」については変化がなかった。 担当部分：Important Differences by Students' Academic Majors 共同発表者：岡山陽子，中西貴之，<u>桑原秀則</u>，佐々木美帆 学習者のリスニング力向上を目的とした教授法の開発と実践の報告を行った。リスニングスコアのなだらかな上昇が見られ、学習者はリスニング力の向上を感じるとともにリスニングに対する自信を持ち始めていることが明らかになった。 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能（65%） 共同発表者：<u>桑原秀則</u>，Benjamin.

4. A study of Fear of Negative Evaluation (preliminary)	単独	2014年11月	全国語学教育学会 第40回年次国際大会 (茨城県 つくば国際会議場)	英語発話時における他者からの否定的評価懸念は、現在ではあまり調査が行われていない。そのため英語を学習する大学生6人に面接調査を行い、回答が心理学の対人不安の認知モデルに適合することが分かった。
5. Fear of Evaluation in Foreign Language Anxiety	単独	2015年11月	全国語学教育学会 第41回年次国際大会 (静岡県 コンベンションアーツセンター)	英語発話時の外国語不安と他者からの否定的評価懸念の関連性に関する研究は行われていない。そこで、大学生50人を対象として質問紙調査を実施した。結果外国語不安と否定的評価懸念には正の相関がみられた。
6. The Silent Way: Learners' Output and Anxiety	共同代表	2016年11月	全国語学教育学会 第42回年次国際大会 (愛知県 産業労働センター)	外国語指導法であるサイレントウェイを使用した授業録画を使用し質的分析 (CA) を行い、別なサイレントウェイの授業に参加した学習者に外国語不安のアンケートを実施し量的分析を行った。その結果、質的分析により発見されたサイレントウェイの技術が学習者の不安度を有意に下げていることが分かり、通常の英語の授業に転用が可能であるということが示唆された。 担当部分: The relationship between anxiety and language performance from Silent way method (65%) 共同発表者: 桑原秀則, 小川洋介
7. Tokiwa Designing and Implementing a "Borderless" English Curriculum from the Ground Up: Year One of a Three-year Case Study	共同	2019年8月	大学英語教育学会 (JACET) 第58回国際大会 (愛知県 名古屋工業大学)	常磐大学で行っている共通英語プログラム (Framework of Tokiwa English Programme: FTEC) の概要と教育効果の検証調査の結果を発表。 担当部分: Ss' Language Proficiency Improvement from the results of CASEC test (40%) 共同発表者: Kevin McManus, 桑原秀則, 森本俊, 坂本暁彦
8. Peer-Mentoring and Development of Student Agency	共同代表	2020年11月	全国語学教育学会 (JALT) 第45回年次国際大会教材展示会 (愛知県 名古屋)	学習者が学習者をサポートするピア・メンタリングの実践において、メンターの自主性の発達に焦点を当てた調査を実施した。その結果、自身の言語学習の知識や経験をメンター活動に活かすことで、メンター自身の自主性に影響があることが分かった。 担当部分: 分析パート (60%) 共同発表者: 桑原秀則, Kevin McManus, 渡邊真由美

(国内学会発表) 1. Issues in Bilingual Education with Japanese Children in North East England 2. 外国語不安の想起モデルの構築－TAEによるインタビュー分析を用いて－ 3. 4.	単独 単独	2004年9月 2020年3月	日英・英語教育学会 第10回大会 (東京都 工学院大学) TAE (Thinking At the Edge) シンポジウム 2020 (オンライン開催)	北東イングランドに住む日本人の子ども達に質問紙調査及び面接調査を行い、第2の文化や言語を習得する上での問題を調査し解決策を提案した。 留学経験のある大学生1人に英語発話時に外国語不安がどのように想起されるか面接を使った事例研究を行った。データ分析の結果、他者からの評価懸念を中心にした外国語不安の想起モデル(中上級者版)が作成された。
(演奏会・展覧会等) 1. 2.				
(招待講演・基調講演) 1. 2. 3. 4.				
(受賞(学術賞等)) 1. 平成16年度茨城大学教育研究開発センター推奨授業 2. 3. 4.		2005年3月	茨城大学	担当してた授業(総合英語)の授業が学生アンケートや受講学生の外部試験得点等から評価され表彰を受けた。

研 究 活 動 項 目						
助成を受けた研究等の名称	代表 分担 等の別	種 類	採択年 度	交付・ 受入元	交付・ 受入額	概 要
(科学研究費採択) 1. 2. 3.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1. 2. 3.						
(共同研究・受託研究受入れ) 1. 2. 3.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1. 2. 3.						
(学内課題研究(共同研究)) 1. ピア・メンター活動 の実践と支援システ ム構築への組み —学習者要因に焦点 を当てて	渡邊 真由 美	自律学 習プロ グラ ムの構築	2018年 度	常磐 大学	981,000	上級生が下級生の学習をサポート する（勉強ではなく学習の方法や 生活習慣）ピアサポーター活動を行 い、大学生の初年次教育の一つ となるプログラムの構築を目指 す。 担当：情意関連調査実施と結果分 析
2. Framework of Tokiwa English Curriculum (FTEC) に基づい た共通英語教育カリ キュラムの実践と検 証	桑原 秀則	共通英 語プロ グラ ムの検証	2018年 度から 3年間	常磐大 学	2,797,000	常磐大学で実施されている共通英 語プログラムの教育効果を次の視 点から検証する：教員・受講者 の評価、外部試験の得点の分析、 学習者・企業ニーズ等。 担当：研究総括及び教育効果等調 査設計・実施
(学内課題研究(各個研究)) 1. 2. 3.						
(知的財産(特許・実用新案等)) 1. 2. 3.						